

豊かな心を育む道德教育の推進

1 昨年度の取組

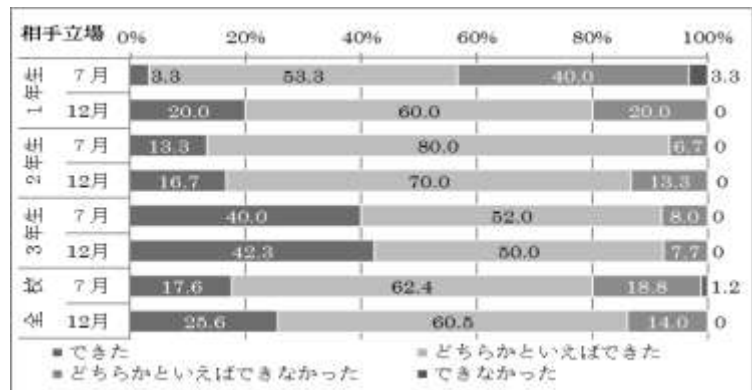
(1) 目標

学期末に行う生徒アンケートで、「相手の立場に立った言動をとることができた」と答える生徒を全校の80%以上にする。

(2) 成果と課題

① 成果

「相手の立場に立った言動をとることができた・どちらかといえばできた」と答えた生徒の割合が、12月の調査でどの学年も80%以上となった。これは、7月の調査結果をふまえ、それぞれの学年で、道德教育の充実に努めたからと考えられる。



② 課題

ア 学年の実態や成長段階に合ったソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターを取り入れた授業実践を行い、温かな人間関係を形成する力を育成する。

イ 「生命尊重」「思いやり」「強い意志」を中核に据えて、道德の時間を充実させる。

ウ 5つの大きな行事（市陸上競技大会、市体育大会、体育祭、文化祭、卒業式）を通して、実践的な人間関係づくりの力を高めるとともに、粘り強く最後までやり遂げる姿勢を育てる。

また、お互いの良さを認め合う場面を設定することで、一人一人の自尊感情を高める。

エ 学期末に行う生徒アンケートで、「相手の立場に立った言動をとることができた」と答える生徒を全校の80%以上にする。（継続）

2 今年度の取組

(1) 目標

学期末に行う生徒アンケートで、「相手の立場に立った言動をとることができた」と答える生徒を全校の80%以上にする。（昨年度と同じ）

(2) 手立て

- ① 1学期の早い時期からソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターを取り入れた授業を行う。
- ② 「生命尊重」「思いやり」を中核に据えて、道德の時間を中心とする道德教育を実施する。
- ③ 5つの大きな行事（市陸上競技大会、市体育大会、体育祭、文化祭、卒業式）を通して、実践的な人間関係づくりの力を高めるとともに、お互いの良さを認め合う場面を設定する。
- ④ 日常的なあいさつができるよう多面的に指導を重ねる。